

文化なかの

公民館報

No.191

(通巻 No.723)



▲公民館
ホームページ

西部公民館

春休み子ども事業

カクテル・キャンドルの
光るペンダントづくり教室

期日 3月20日(土)

時間 午前10時30分～正午

内容 電球型ケースにキラキラのキャンドルを
入れてかわいいペンダントを作ります。

材料費 700円

定員 15人(小学校低学年は保護者同伴)



北部公民館



ひざ痛の原因と
簡単な体操療法

期日 3月18日(木)

時間 午後1時～2時30分

内容 痛みの原因を知り、簡単な体操で
予防する講座です。

定員 25人(市内在住・在勤)

ふるさととの歴史

栗林の村はどのように開発されたか(前編)
～キーワードは縄文時代のクルミ貯蔵～

1998年に発刊された研究書(※)によって、縄文時代後期の栗林遺跡が、関孝一氏の論考で世間の注目を浴びた。それは、クルミ貯蔵の背景という副題の論文であり、以下に要約する。

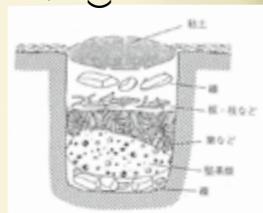
縄文時代は、1万3千年前から約千年間も続いた時代で、栗林遺跡はその後期に発展した文化であり、落葉広葉林のもと、トチの実・ドングリなどを基本食料にし、千曲川の定期的サケ漁やそのほかの植物採集・小動物の狩りなどの暮らしが展開されていた。こうした栗林遺跡の型態は東日本に多く、「サケ・ナッツ型」の文明に包括され、1980年代に新発表された学説である。栗林遺跡で貯蔵された品物で際立って多いのがクルミで、小さな集落ではクルミ中心の採集生活が展開されていた。集落に近い高台にクルミを貯蔵する貯蔵穴(図参照)を掘り、千曲川沿いの低地に水さらし

場や洗い場を設けていた。関氏は、なぜクルミが多く貯蔵されたのかに疑問を抱き探求されている。

当時の発掘現場の花粉分析の結果、トチの花粉化石が多量に認められていることから、基本的食料はトチの実・ドングリなどであって、大量のクルミは別の目的があって貯蔵されたという。その貯蔵形態は、次の年のクルミが収穫できるまで1年間の貯蔵を考えていたようであり、栗林遺跡では、余剰クルミを他の遺跡の人たちとの物々交換に使ったのではないかと結論されている。さらに憶測に過ぎないと断りながら、千曲川下流域から信濃川流域にまで交流して、積雪地域との交流にクルミが使われたのではないかと考えられる。

岩戸貞彦

県北信シニア大学郷土史講師
「高井」元常任委員
中央公民館ふるさと歴史探訪講座講師



▲貯蔵方法の模式図

(※)『長野県立歴史館研究紀要第4号』所収「縄文クルミ考～栗林遺跡におけるクルミ貯蔵の背景」関孝一(中野市西条)著

中央公民館

第2回

コラージュ de ノート & 思い出ファイル作り

期日 3月14日(日)
時間 午前10時～11時30分
内容 ノートやファイルの表紙を、シールや紙でコラージュし、オリジナルの作品を作ります。(お子さまと保護者に各1冊ずつ)
定員 市内の小学生と保護者15組(新規受講者優先)
材料費 1組500円
申し込み 2月8日(月)～21日(日)



スマートフォンアプリ活用教室

期日 2月22日～3月22日
(全5回、毎週月曜日)
時間 午後1時30分～3時
内容 スマートフォンの便利なアプリを楽しく安全に活用する方法を学びます。
定員 12人(スマホかタブレットをお持ちの方)



古関裕而と筒美京平

～2020 話題の作曲家を振り返る～

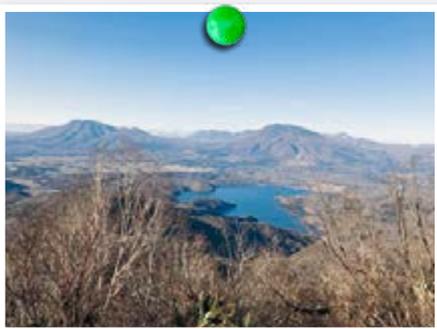
期日 3月3日(水)
時間 午後2時～3時30分
内容 山崎浩さんをお迎えし、昨年朝ドラ「エール」で話題となった作曲家古関裕而や昭和の歌謡曲のあれこれをメロディとともにお話していただきます。
定員 30人



豊田公民館

机上講座 斑尾山自然探訪

期日 3月4日(木)
時間 午後1時30分～3時
内容 春の斑尾山はおもしろい! ブナ林、ギフチョウなど多彩で豊かな自然を深掘り。春山ハイクで訪れたい見どころやおすすめの場所も紹介します。
定員 30人



チャレンジこども教室

もちり_{ふわふわ} ドーナツスクイズをつくろう

期日 3月18日(木)
時間 午前10時～11時30分
内容 作って楽しい♪
にぎって楽しい♪
ドーナツスクイズを作ろう!
材料費 300円
定員 15人(未就学児は保護者同伴)
申し込み 2月15日(月)～3月10日(水)



音楽で脳がイキイキ!

期日 3月11日(木)
時間 午後2時～3時30分
内容 音楽療法を取り入れた脳の体操です。楽しく歌って笑って、長生きしましょう。
定員 20人(65歳以上の方)
申し込み 2月15日(月)から



 **受講には申し込みが必要です。**
右記の連絡先までご連絡ください。

■中央 ☎(22) 2691 ■北部 ☎(26) 0677
■西部 ☎(23) 1024 ■豊田 ☎(38) 2922